



ひとひと 女・男 ひろば

< 第29回 >

ご存じですよ 育児休業制度 もっともっと利用しましょう！

仕事と子育ての両立を支援しようと平成4年に施行された育児休業制度ですが、まだ浸透には時間がかかっているようです。2年前に行なわれた「第1回21世紀出生児縦断調査」によると、第1子出産を契機に勤めを辞めた女性が約7割にものぼっていて、その多くが「育児の負担が大きいため」と答えています。

また、働いている親の育児休業取得率を見ると女性の80.2%に比べ、男性は0.7%と極めて低くなっていて、この原因として制度に関心がないことがあげられますが、忙しくて制度を取りにくい職場の雰囲気もあります。

調査によれば男性の場合、労働時間が週60時間以上になると育児に参加する割合が減少し始めていて、残念なことに子育て期が最も労働時間が長くなっています。

このように育児期における父親の長時間労働は、母親へ育児の負担や不安を一人で背負わせてしまうことになり、また制度の定着を遅らせている原因にもなっています。男女を問わず仕事と子育ての両立が早く実現するためには、より一層の制度周知と取得しやすい社会全体の環境づくりが必要と言えます。

立ち上がれ！バイオリサーチパーク

地域交流講座

「21世紀を創るバイオの世界」



講師 食品機能科学・食品分析科学研究室教授 **小西徹也**さん

最近、活性酸素や酸化ストレスという言葉が、日常的に耳にするようになりました。これは活性酸素による生体損傷の蓄積が、がんや加齢疾患に深く関わっていることが明らかになってきたからです。

活性酸素は、反応性に富んだ「酸素あるいは酸素に由来する化学反応種」と一般的には定義されていますが、さまざまな種類があり、またそれぞれが特異的な化学反応性を持っています。具体的には過酸化水素、ヒドロキシラジカルなど通常の酸素から直接生成するものと、これらがさらに生体分子と反応して出来る脂質過酸化物やアルコキシラジカルなどがあります。これらの活性酸素はストレスや紫外線、化学物質、たばこなどいろいろな外的要因で生成しますが、ミトコンドリアでエネ

ルギーを作る過程や、炎症反応などの生理反応で、身体の中では一定量は生成しています。本質的に生体分子を壊す性質を持つものですが、生体は巧妙な消去システムを備えています。その第一はスーパーオキシドジスムターゼ、グルタチオンパーオキシダーゼ、カタラーゼなどの抗酸化酵素群です。それにビタミンEやCなどの酸化化ヒタミン類、グルタチオン、尿酸などの酸化化小分子群、そしてアルブミンなど種々の酸化化分子が働いて体内の活性酸素濃度の増加を防いでいます。白血球が殺菌に利用するという有益な役割も知られていますが、とかく害作用が強調される活性酸素にも、遺伝子の転写調節因子の

活性調節に関わる化学伝達物質的な役割があることが明らかになり、生理的にも重要な因子であると認識されるようになってきました。

それでも生体の消去システムによる処理が追いつかず、特にヒドロキシラジカルなどの極めて反応性の強い活性酸素の産生が高まったりすると、脂質、蛋白質、核酸(DNA)などの生体分子を酸化的に損傷します。このような状態を酸化ストレスと呼んでいます。それにより老化や各種の疾病が引き起こされるという考え方が酸化ストレス学で、いろいろ研究からその妥当性が認められています。従って酸化ストレスの防御が、予防医学では重要な課題と考えられます。

(次号へ続く)

新津市の人口

	平成15年6月30日現在(前月比)	前年同月比
男	32,543 (+7)	(+27)
女	35,167 (+4)	(+40)
計	67,710 (+11)	(+67)
世帯数	21,565 (+19)	(+304)

6月中の動き

出生	33	死亡	46	転入	132
転出	108	結婚	28	離婚	9

身近な自然 豊かなカルチャー

花と遺跡のふるさと公園

新津市美術館

☎0250-25-1301
<http://www.city.niitsu.niigata.jp/>

新潟県埋蔵文化財センター

☎0250-23-1142
<http://www1.ocn.ne.jp/~n-maibun/>

新潟県立植物園

☎0250-24-6465
<http://botanical.greenerly-niigata.or.jp/>